東大曲小学校　学校報　　校訓　健やかに 明るく

# かがやく瞳

令和４年度
2022.　７．１２
No.１６

## バトンを繋ぐ子どもたち　～民謡教室・古四王学習～

**＜民謡教室＞**　６月２９日、７月６日と２回にわたって民謡教室を行いました。

学校ボランティアの土田さんが会長を務める民謡研究会のみなさんがご協力くださいました。数々の民謡コンクールで優勝している方々にドンパン節を教えていただきました。大変贅沢で貴重な機会となりました。

はじめは歌詞や歌詞の意味が分からず、声が小さかったのですが、ドンパン節の楽しいリズムや節、土田さんの楽しく歌う姿に誘われて、だんだんと声量が出てきました。

２回目の教室では、太鼓、手踊り、三味線を体験しました。太鼓コーナーでは太鼓の順番を待っている子どもたちが、自分たちでドンパン節を歌って、太鼓をたたきやすいようにしてくれました。また、小休止の時には、数人が集まって手踊りの練習が始まりました。体育館はドンドンパンパンの楽しい雰囲気になっていきました。教室の最後には、みんなが歌・太鼓・三味線・手踊りに分かれて合わせました。ドンパン節でみんなが一体となることができました。民謡の力を感じた時間でした。

【ドンパン節　民謡の力でみんなが一つに】

**＜古四王学習＞**　４年生が古四王神社のことについて学習しました。

教えてくださったのは古四王神社氏子の会総代の冨樫武彦先生でした。これまでは古四王神社の建物や大工甚兵衛の学習を行ってきましたが、今回の４年生の学習は視点がこれまでの学習とは異なりました。「古四王神社が４５０年間続いてきたのはなぜか？」という視点からの学習でした。これまでは歴史に名が残っている人物や建物を学習していましたが、今年は「名もない人々の歴史」を掘り起こす学習を行っています。具体的には４５０年間、だれがどのようなことを行って古四王神社が続いてきているのかを冨樫先生から伺いました。

**バトンを繋ぐ人に**　私たちは一生でたくさんの人や機会と出会います。その出会いの中で私たちは、知識・習慣・知恵・立場・伝統・文化など様々なことを身に付けていきます。その身に付けたことは、やがて自分だけのことではなく、自分の子ども、後輩、地域の人々など自分に関わる人たちに繋いでいきます。そうして世の中が作られてきました。このように考えると、私たちの一生には、何かのバトンを受け継ぎ、バトンを渡す役割が課せられているのではないかと思います。

現在の世の中には、種々のバトンが繋がることに困難な状況が見られます。「民謡教室」「古四王学習」には、バトンを繋ぐ人として成長してほしいという願いも込められています。子どもたちが大きくなった時、必ずしも民謡を歌うわけではないでしょう。しかし、何かのバトンを受け継いで繋ぐ気持ちを持ってほしいと思います。その気持ちが持続可能な社会を築く基礎になると思っています。